

科目名	体育	授業時数	週 3	単位	3	学年	
		コース・学年	研志	コース			
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しよ うとすることができる。
基	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
準	基礎練習を正しくおこな い、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志	コース キャリア・教育・普通
目標	文学作品を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、その読解により、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。また、現代社会で求められる言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	相手や場に応じて効果的に話しの確に聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを発展させている。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる。客観的に主体的に思考、判断することができる。
	A わかる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	相手や場に応じて話し聞き取り、自分の考えを表現できる。目的や意図に応じた適切な表現による文章が書ける。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる力を磨く。客観的に主体的に思考、判断する力を磨く。
	B できる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけようと努力する。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解することができる。自分の考えを文章にまとめられる。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現しようと努力する。客観的に主体的に思考、判断できる力をつけようと努力する。
	C する	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて学習意欲を持つ。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解しようとする姿勢を持つ。自分での考えを深めようとする学習意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		授業態度の観察 定期考査 提出スト 定課題 漢字テ	授業態度の観察 定期考査 提出 定課題 作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『はじめての失敗』(随想) 『言葉を理解する』(評論) 『マスク』(小説) 小テスト、作文コンクール、漢字テスト
2 学期	『博士の愛した数式』(小説) 『おまえはどこに立っている』(随想) 『小説とは何か』(評論) 小テスト、作文、漢字テスト
3 学期	

何で学ぶか(教材)

教科書「新高等学校現代文B」明治書院 教科書「新高等学校現代文B学習課題ノート」明治書院 「常用国語便覧」浜島書店 「新版高校漢字必携」第一学習社編集部 各種プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習(発表) グループ学習(発表)

科目名	数学演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	キャリア・保育・看護
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	数学的な考え方を理解し、様々な事象に応用することが出来る。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
	わかる A	問題に直面したとき、数学的な考え方をを使って論理的に思考することが出来る。	様々な問題に取り組み、他者と協力しながら解き進めることが出来る。
	できる B	1つ1つの考え方や、数学的な思考を論理的に、適切に順序立てて他者に説明することが出来る。	できないところは解答解説を参考にしたり、他者に聞くなどして試行錯誤しながら解くことが出来る。
	する C	標準的な問題に対して、適切な公式、考え方を用いて解くことが出来る。	問題文の意味を理解し、解答解説を参考にしながら、回答を作成することが出来る。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	SPI対策 就職試験対策
2 学期	2次関数のグラフ 2次方程式と2次不等式 三角比 場合の数と確率
3 学期	就職試験対策

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学Ⅰ』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学Ⅰ+A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	英会話	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース キャリア・教育・看護
目標	英語表現を覚えたり表現できるようになり、身近な話題について英語で会話する能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える An advanced understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks diligently completed in a timely manner
価	A わかる An upper intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	Above-average completion of all tasks with minimal supervision
基	B できる An intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An intermediate written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks completed but requires supervision
準	C する An elementary understanding of vocabulary & key expressions	An elementary written & verbal usage of vocab & key expressions	Constant supervision & reminding of the task at hand required
評価方法	Written test	Oral test	Class supervision & observation

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Unit 1: Our class Unit 2: Look at me! Unit 3: On the weekend Unit 4: Time for school
2 学期	Unit 5: Put on your boots! Unit 6: Home sweet home Unit 7: Are you hungry? Unit 8: A great place to live
3 学期	

何で学ぶか (教材)

- Textbook: "Get Ahead Student Book 1" - Supplementary materials "Get Ahead Syllabus suite" https://www.oupjapan.co.jp/sites/default/files/contents/dl-materials/media/oup_cat_ga.pdf
--

どのように学ぶか (授業方法など)

Each unit is based around a theme or topic. Vocabulary and grammar related to this topic is learnt by the students in order to achieve various communicative and comprehensive goals.

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志	コース キャリア・保育・看護
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思考・表現することができる。	多様な場面における言語活動に取り組むことができる。
	<i>A</i> わかる 相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	<i>B</i> できる 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 基本文や基本問題を読んだり、解くことができる。	新出単語や表現について理解し、適切に用いることができる。	授業に臨むための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	that節
2 学期	疑問詞+to+不定詞 分詞構文 関係代名詞what 過去完了形
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH Communication II』 数研出版 COMET コメット英単語 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名	地理A	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース キャリア・保存
目標	地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育て、現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代世界の地理的な諸課題に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組む追及している。
基	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
準	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項を理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
標準	現代世界の地理的な諸課題を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	地球上の位置と国家 グローバル化がすすむ世界 人々の生活と地形 人々の生活と気候
2 学期	人々の生活と産業・文化 各国の生活・文化
3 学期	各国の生活・文化 地球的課題

何で学ぶか(教材)

帝国書院『新地理A』 帝国書院『高等学校 新地理Aノート』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	簡易ソフト	授業時数	週 4 単位		3 学年
		コース	研志	コース	キャリア
目標	ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得し活用できる。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を改善できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	A わかる 情報を適切に収集、処理、発信するための基礎的な知識を身につけている。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア（Excel）の習得に積極的に取り組んでいる。
	B できる 情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち取り組んでいる。
	C する 情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報の活用と情報モラル ビジネスと情報 表、グラフの作成 PowerPointの操作
2 学期	ビジネス情報の処理と分析 関数の利用 表、グラフの作成 プレゼンテーション
3 学期	

何で学ぶか (教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 PC実習

科目名	商品開発	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	キャリア
目標	商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させるとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	商品企画・開発し、流通させるために必要な技術、商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付け、活用することができるか。	商品開発に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断できる。	商品活動に関する諸活動を主体的に考える、実践的な態度を身に付けているか。
基	顧客満足を実現することの重要性について理解しているか。	商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して、思考を深めているか。	消費者の視点に立った商品の企画・開発・流通に主体的に取り組もうとしているか。
準	商品開発に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	商品開発について関心を持って取り組むことができる。
	商品開発に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	デザインの基礎 パッケージデザイン グラフィックデザイン 知的財産権の内容
2 学期	知的財産権の取得 知的財産権の活用 流通の仕組みと市場 物流と流通を支えるその他の活動
3 学期	総合実習

何で学ぶか (教材)

教科書
商品開発 実教出版
問題集
商品開発 実教出版

どのように学ぶか (授業方法など)

教科書を中心とする講義形式
グループ活動

科目名	電子商取引	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	情報通信ネットワークを活用した商取引や、広報活動に必要な文書に関する知識と技術を習得させ、各種メディアで作成した情報を統合させることの重要性について理解させるとともに、電子商取引に応用する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 相手に分かりやすく伝えるための資料作成や表現方法を身につけさせ効果的な発表ができる。	使用するソフトウェアの操作方法を習得し、適切な文書や作品をWebページデザインとして作成することができる。	効果的な広報活動に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。
	A わかる Webデザインに必要な知識を理解できる。	情報モラルやマナーを守る必要性を理解することができる。	電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を学ぼうとしている。
	B できる 電子商取引に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	電子商取引について関心を持って取り組むことができる。
	C する 電子商取引に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報通信技術の進歩とビジネス コンテンツの作成
2 学期	ウェブデザインと広告と広報 ウェブページの公開 電子商取引とビジネス
3 学期	電子商取引とビジネス

何で学ぶか (教材)

教科書 電子商取引 実教出版

どのように学ぶか (授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動 PC実習

科目名	ビジネスマナー	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	ビジネスに関するマナーとコミュニケーションの知識・技術を習得し、ビジネスの諸活動における円滑な人間関係を築く能力と態度を育てる。秘書検定取得に取り組む。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	<i>S</i> 使える 日常生活の場面で応用することができる。	日常生活でのマナーに関する知識の活用方法を適切に判断し、コミュニケーション力を身につけることができる。	ビジネスマナーを理解し、効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	<i>A</i> わかる 挨拶や好感を与える立ち居振る舞い、身だしなみの重要性を理解する。	マナーやコミュニケーションについての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	ビジネスマナーやコミュニケーションについて主体的に考え、発表し合うことができる。
	<i>B</i> できる ビジネスマナーに関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	ビジネスマナーとコミュニケーションの諸活動に広い関心がある。
	<i>C</i> する ビジネスマナーに関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ビジネスマナーにおける 理論、実技の要点 必要とされる資質、職務意識 一般意識、マナー・接遇、技能
2 学期	秘書検定過去問題集演習 各種検定（漢検・英検）、校内漢字テスト対策
3 学期	

何で学ぶか (教材)

問題集 秘書検定3級実問題集 早稲田教育出版

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 グループ活動 実習

科目名	一般教養演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース キャリア	
目標	公務員，就職試験に向けて様々な検定などを用いながら，実社会で活用できる表現力，一般常識の向上を図る。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S 日々の重要ニュースについて，その背景に含まれている問題点，社会的な意味，今後の見通しなどを考えることができる。	公務員試験や就職試験の演習において，正しく解答することができる。	目標を設定し，到達できるまで繰り返し学習する。
	わかる A 社会事象についてメディアなどから必要な情報を読み取ることができる。正しい敬語を用いて話すことができる。	問題演習において，根拠をもって正しく解答できる。	時事問題に興味をもち，社会人としての知識を養う姿勢がある。
	できる B 漢字や言葉の意味，簡単な計算など正しく理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	社会事象について興味を持ち，自身の生活との関りを意識する。
	する C 一般常識修得の重要性を理解できる。	一般教養演習の必要性を理解し，興味を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物	授業・定期考査 提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	SPI 言語分野，非言語分野 各種検定対策（漢検・英検） ニュース検定問題集等
2 学期	面接の受け方，答え方 SPI 時事問題
3 学期	

何で学ぶか (教材)

テキスト，問題集 ニュース検定 毎日新聞出版 SPIベーシック問題集 実務教育出版

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 演習 グループ学習

科目名	子どもの発達と保育	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	保育
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を得る。 ②子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S	使える	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し、発達段階に応じた対応を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見だし、発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ、主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
	A	わかる	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見だし、表現方法を身につけている。	保育に対する関心を持ち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。
	B	できる	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものに関する基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見だすことができる。	主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる意欲を身につけている。
	C	する	作品作りや実習の基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見だそうとすることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法			授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 実習 定期テスト	授業中の取り組み 年間を通しての出席状況 課題提出

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	幼稚園実習 子どもの生活 (生活習慣の形成・健康管理と事故防止)
2 学期	作品制作と発表会準備・実践 子どもの保育 (保育の意義と重要性・家庭保育と集団保育・保育の方法)
3 学期	

何で学ぶか(教材)

子どもの発達と保育(教育図書) 学習ノート プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	子ども文化	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	幼児
目標	①子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得し、子ども文化の充実を図る能力と態度を身につける。 ② 作品作りを通してそれぞれの活動や文化財の活用方法を学習していく。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S	使える	子どもの発達段階に応じた遊びの種類や特性を知り、保育者として年齢に合わせた適切な関わりを身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深めることができる。生涯にわたって適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	他者と、異なる世代との関わりを主体的に持ち、共に生きる力を育てる実践的な態度を身につけ、乳幼児の健全な成長に関心を持っている。
	A	わかる	保育士、幼稚園教諭など保育に関する職業観について深く学び、保育者としての振る舞いを身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	異なる世代との関わりを主体的に持ち、共に生きる力を育てる態度を身につけている。
	B	できる	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得し、自立して生活する能力を身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を探ることができる。	異なる世代との関わりを主体的に持つ態度を身につけている。
	C	する	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得している。	乳幼児の保育について課題を見いだす努力ができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法			授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	保育者の役割 保育とは 保育士、幼稚園教諭の仕事 遊びと保育
2 学期	子どもの遊び 児童文化財 総合発表会
3 学期	

何で学ぶか (教材)

家庭309 子ども文化 (教育図書株式会社) プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	自己表現	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	研志 コース 保育	
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもにかかわる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価			
S 使える	・子どもの発達段階に即したかかわりをする	・子どもが関心を抱くものを作成・表現する	・子どもの発達に関心をもつ
A わかる	・子どもの発達段階路理解する	・子どもが関心を抱くものを見いだす	・保育に対する関心をもつ
基 B できる	・子どもの発達段階に応じた対応を身につける	・子どもの発達段階や興味関心によって個々に応じた対応をする	・子どもに関心を持ち、意欲的に子どもとかかわろうとする
準 C する			
評価方法			

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	4月 オリエンテーション 5～7月 幼稚園実習 ・施設見学、給食補助 ・保育への参加 ・表現・リズム遊び ・絵本の読み聞かせ
2 学期	8～10月 幼稚園実習 ・運動会・発表会の練習補助、見学 9～12月 幼稚園実習、総合発表会の準備 ・グループワークによる調べ学習 ・作品作り
3 学期	

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、実習

科目名	音楽演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 保育	
目標	保育・幼児教育で取り扱う教材や、それらを展開するために必要なピアノ演奏技術を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	大譜表の読み方を理解し、鍵盤を見なくても正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポとアーティキュレーションでハーモニーを感じながら鍵盤を見なくても演奏することができる。	目標を設定し、到達できるまで繰り返し練習することができる。
	アーティキュレーションを示す記号等を理解し、正しい姿勢と運指で演奏することができる。	曲想に合わせたテンポとアーティキュレーションで演奏することができる。	練習したことを他と聴きあい、互いに評価ができる。
	楽譜の読み方を理解し、正しい姿勢と運指で両手の演奏することができる。	曲想に合わせたテンポで演奏することができる。	できないところをできるようになるまで繰り返し練習することができる。
	正しい姿勢と運指で片手ずつの演奏することができる。	メトロノームに合わせ、正しいリズムで演奏することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト	授業 実技テスト	授業 実技テスト

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	全訳バイエルピアノ教本 P42～46
2 学期	全訳バイエルピアノ教本 P47～53
3 学期	全訳バイエルピアノ教本 P54～56

何で学ぶか (教材)

全訳バイエルピアノ教本 (全音楽譜出版社)

どのように学ぶか (授業方法など)

個人・ペア練習 1ページごとにチェック

科目名	美術演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	保育・幼児教育系進学
目 標	①美術の学習内容に関心をもち,制作や鑑賞へのあこがれや期待をもつ ②幼児教育において,必要な図画・工作の技術を身につける。			

どのような力を,どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える活用Ⅱ	実践するために必要な知識を身につける	発達段階に応じた制作活動や技法を適切に判断できる	それぞれの技法の特徴や対象となる年齢を考える
	できる活用Ⅰ	目的に応じた道具や技法を選択する	様々な技法を用いて基礎的な制作をする	様々な技法について学ぼうとする
	わかる習得	幼児教育の中での芸術活動の意義と役割を理解する	幼児教育の諸活動において様々な技法を用いて表現できる	発達段階を意識し,様々な技法を用いて制作することができる
研志力(仮)		自己表現力,計画力	自己表現力,計画力	自己表現力,計画力
評価方法		課題の提出	課題の提出	課題の提出

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	4月 オリエンテーション 5, 6月 折り紙を用いた制作 7, 8月 似顔絵の制作
2 学期	9月 オリジナル季節ポスターの作成 10, 11月 紙芝居の制作 12月 粘土の制作
3 学期	

何で学ぶか(教材)

折り紙,画用紙,色鉛筆 クレヨン,粘土 等

どのように学ぶか(授業方法など)

講義,演習

科目名	フードデザイン	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 保育	
目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得し、実践することができる。	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、考えをまとめて判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけ、主体的に行動することができる。
	A わかる	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得している。	自分自身の食生活や食環境の現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。
	B できる	食事の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を見つけ、判断ができる。	食の役割に関心を持ち、作る・食べる計画をたてることができる。
	C する	食事の役割と意義について基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習
2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本 料理様式とテーブルコーディネート 食育 フードデザイン実習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

フードデザイン (実教出版) フードデザイン学習ノート (実教出版) プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 実習

科目名	簡易ソフト	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	保育
目標	ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得し活用できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	わかる A	情報を適切に収集、処理、発信するための基礎的な知識を身につけている。	表計算ソフトウェア（Excel）の習得に積極的に取り組んでいる。
	できる B	情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち取り組んでいる。
	する C	情報に関する重要語句が理解できる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報の活用と情報モラル ビジネスと情報 表、グラフの作成
2 学期	ビジネス情報の処理と分析 関数の利用 PowerPoint操作 プレゼンテーション
3 学期	

何で学ぶか (教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 PC実習

科目名	看護基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	医療看護を取り巻く現状や基礎的知識・技術を学び、医療従事者を目指すうえで必要な資質の体得と向上を図り、進学への動機づけにつなげる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、その知識・技能を適切に理解・活用している。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、医療看護の意義や役割を理解している。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現することができる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断できる。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むことができる。
	医療看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけようとしている。	医療看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、看護医療に携わる者として適切に判断し、表現しようとしている。	医療看護に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとしている。
評価方法	授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 看護師に必要な資質 医療看護を取り巻く社会背景 理学療法士について
2 学期	看護と倫理 看護と日常生活援助 理学療法士について 対象別看護
3 学期	受験指導

何で学ぶか (教材)

オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか (授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習

科目名	看護医療研究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	看護医療福祉の各分野の基礎的事項を横断的に理解し、チーム医療に対する基本的な考え方を身に付け、また他者を思いやり尊重する態度を養う。医療福祉従事者としての心構えを身に付けると同時に、必要とされる資質や知識・技術を身に付け高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	看護・医療・福祉の各分野に関する知識を身につけ、その意義や社会的役割を理解し日常生活に応用を図ることが出来る。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を理解し、習得した基礎的な技術の他者への応用を図ることが出来る。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し率先して能動的に取り組むことができる。
	A わかる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や社会的役割を理解している。	様々な体験を通し、各分野で求められる資質を考え理解し、基礎的な技術の習得をしている。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し意欲的に取り組むことができる。
	B できる	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や社会的役割の理解に努められる。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を考え、それを基にした学習意欲の喚起と実践を行うことができる。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決に意欲的に取り組むことができる。
	C する	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	諸体験を通し、各分野に求められる資質を理解し、深めようとできる。	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持つことができる。
評価方法	授業 授業プリント 定期考査	授業 授業プリント 実技演習	授業 授業プリント 提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	社会福祉協議会との連携授業 【地域包括ケアシステム・老年体験等】 専門学校出前講座(岡山医療福祉専門学校) 専門学校出前講座(洛和会京都厚生学校)
2 学期	鳥取看護大学連携授業 認知症サポーター養成講座 医療従事者による講和 看護医療福祉時事研究Ⅰ
3 学期	

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材 授業プリント 映像教材

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義 グループ活動 体験実習

科目名	国語演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 看護	
目標	語彙や知識を増やし，問題演習により思考力，判断力を向上させることで入試レベルの読解力を身につける。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	入試レベルの問題演習において，漢字や語彙が正しく解答できる。	入試レベルの問題の演習において，正しく解答することができる。
	わかる A	入試レベルの問題演習において，積極的に解き，復習し，読解力を向上させるよう努めている。	問題演習において，時間配分を考えながら自分なりに根拠をもって解答を出している。
	できる B	問題演習において，漢字や語彙の問題が正しく解答できる。	問題演習において，自分なりに根拠をもって解答を出している。
	する C	漢字や語彙の力が向上している。	問題演習において，自分なりに根拠をもって解答を出している。
評価方法	定期テスト 小テスト 提出物	問題演習において，自分なりに根拠をもって解答を出すことができる。	問題演習において，自分なりに根拠をもって解答を出している。

いつ，何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
2 学期	現代文読解演習 漢字・語彙の問題
3 学期	

何で学ぶか (教材)

『新成 現代文』 (尚文出版) 『新版 高校漢字必携』 (第一学習社)
--

どのように学ぶか (授業方法など)

問題演習 講義による解説

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護医療福祉

目 自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、医療・福祉職
標 で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を身につける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	A わかる 意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	B できる 自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	C する 目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は1分、2分）、新聞記事を使った小論文、テーマ型・課題文型小論文、課題文要約、自己PR、志望理由書の準備、面接準備
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型・課題文型小論文、医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事・出前授業について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ、上級学校の過去問題、面接準備、研志コース発表の準備（協働作業）
3 学期	

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材、日本経済新聞をはじめとした記事、医療と安全管理総集版（ニホンミック）、専門学校・大学の過去問題、専門学校の出前授業、職業体験、講演・講座
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演、各種医療体験

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース 看護	
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。 実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。 実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき
2 学期	第3章 体内環境と恒常性 第4章 植生の多様性と生態系
3 学期	

何で学ぶか (教材)

第一学習社 改訂版 新生物基礎 (319)
第一学習社 ネオバルノート生物基礎

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 グループ活動

科目名	公民	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に生きる国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	現代の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようすることができる
	A わかる	現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の諸課題について、考察し、主体的に解決しようすることができる
	B できる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようすることができる。
	C する	事実をもとに考察することができる	日々の課題に対して、主体的に理解しようすることができる。
評価方法	・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	国際政治のしくみと動向
2 学期	国際経済のしくみと動向 国際社会の現状と課題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

東京書籍「現代社会」 東京書籍「現代社会 要点サブノート」 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	子どもの発達と保育	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	看護
目標	①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S	使える	少子高齢化への対応や、持続可能な社会の構築、食育の促進、男女共同参画社会の推進等をふまえて、自立して生活する知識や技術を身につけ、実践することができる。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深めることができる。生涯にわたって適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	他者と、異なる世代との関わりを主体的に持ち、共に生きる力を育てる実践的な態度を身につけ、乳幼児の健全な成長に関心を持っている。
	A	わかる	少子高齢化への対応や、持続可能な社会の構築、食育の促進、男女共同参画社会の推進等をふまえて、自立して生活する能力を身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	異なる世代との関わりを主体的に持ち、共に生きる力を育てる態度を身につけている。
	B	できる	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得し、自立して生活する能力を身につけている。	乳幼児の保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深めることができる	異なる世代との関わりを主体的に持つ態度を身につけている。
	C	する	乳幼児の生活と保育に関する基礎的な技術・知識を習得している。	乳幼児の保育について課題を見いだす努力ができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法			授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	子どもの発達の特徴 発達と乳幼児期の意義・発達と保育環境 子どもの発達の過程 子どもの発育・精神発達・人間関係の発達
2 学期	子どもの生活 生活と養護・遊び・生活習慣・健康管理 子どもの保育 保育の意義・家庭保育と集団保育
3 学期	

何で学ぶか(教材)

子どもの発達と保育 (実教出版) 子どもの発達と保育学習ノート (実教出版) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

科目名	フードデザイン	授業時数	週 2 単位	3 学年
目標	コース 研志 コース 看護 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得し、実践することができる。	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、考えをまとめて判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけ、主体的に行動することができる。
基	食事の役割と意義について理解し、食事を構成する栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得している。	自分自身の食生活や食環境の現状に課題を見つけ、思考を深めることができ、判断・表現ができる。	食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。
準	食事の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	食生活や食環境の現状に課題を見つけ、判断ができる。	食の役割に関心を持ち、作る・食べる計画をたてることができる。
評価方法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習
2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本 料理様式とテーブルコーディネート 食育 フードデザイン実習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

フードデザイン (実教出版) フードデザイン学習ノート (実教出版) プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 実習

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えを深めている。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることができる。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重している。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につける努力が見える。	・文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする努力が見える。	・国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする努力が見える。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて学習意欲を持つ。	・文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする意欲を持つ。	・国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする意欲を持つ。
評価方法	・定期考査 ・課題確認テスト ・漢字テスト ・授業の取り組み姿勢	・定期考査 ・課題確認テスト ・ノートの整理 ・授業の取り組み姿勢	・授業に臨む姿勢、意欲 ・ペア学習、グループ学習

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『はじめての失敗』(随想)『おまえはどこに立っている』(随想)『マスク』(小説)『オデュッセイア』(小説)『言葉を理解する』(評論)『小説とは何か』(評論)
2 学期	『わたしが一番きれいだったとき』(詩)『九月の風』(詩)『博士の愛した数式』(小説)『怖れ』(小説)『あるいは「風」について』(評論)『物の見えたる光』(評論)
3 学期	

何で学ぶか (教材)

・「新高等学校現代文B」明治書院
・「新高等学校現代文B 学習課題ノート」明治書院
・各種補助教材(プリント等)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
プリント教材

科目名	国語表現演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTP0に応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			
		コース	研志 コース	大学進学

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 習得した漢字・ことば・ことわざ・慣用句・四字熟語を活用する。	文章表現のなかで、習得した国語常識を適切に表す。	日常的な場面で積極的に習得した語句を使用する。
基	わかる 漢字・ことばの正しい使い方ができ、常識用語を認識する。	文章表現のなかで、適切な語句を正しく選択する。	習得した語句を理解し、自分の日常生活に関わらせる態度を持つ。
準	できる 国語常識を繰り返し学習し、正確に理解する。	場面、状況にあった語句の使い方を考え、正しく理解する。	身につけるべき事柄について意欲的に学習できる。
進	する 覚えておくべき国語常識の演習問題に取り組む。	漢字書き取り練習、語句の意味調べに取り組む。	日本語の力を身につけるため、国語を総合的に学習する意欲を持つ。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現 韻文 文学史 文法の力
2 学期	・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現 韻文 文学史 文法の力
3 学期	

何で学ぶか (教材)

・テスト式 国語常識の総演習 京都書房 ・補助教材プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

・問題演習後の答え合わせ ・補助教材での反復学習

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人のものの見方や感じ方、考え方とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	古典を通して、先人のものの見方や感じ方、考え方を理解することができる。	古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	古典作品を、自らの考え方や生活に結び付けながら読もうとすることができる。
基	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解できる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品を読むためのきまりや語彙を身に付けようとするすることができる。
準	古典の作品に表れている言葉の響きやリズム、表現の特色などを理解することができる。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・古文 随筆(枕草子)、物語(源氏物語・大鏡)、日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・漢文 史伝(三国志・史記)、小説(人面桃花・杜子春伝)、漢詩
2 学期	・古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・私大試験対策
3 学期	

何で学ぶか(教材)

・教科書 明治書院『新 高等学校古典B』
・副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) ・『新明説漢文』(尚文出版) ・『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・ペア学習 ・グループ学習 ・問題演習

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、医療・福祉職で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	A わかる	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	B できる	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は1分、2分）、新聞記事を使った小論文、テーマ型・課題文型小論文、課題文要約、自己PR、志望理由書の準備、面接準備
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型・課題文型小論文、大学の過去問題や講演・出前授業について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ、過去問題、面接準備、研志コース発表の準備（協働作業）
3 学期	

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材、専門学校・大学の過去問題、大学の出前授業、講演・講座

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演、

科目名	数学ⅠA演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	使える S 事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
	わかる A 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	できる B 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	する C 基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 2次関数 三角比 データの分析
2 学期	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅰ』 数研出版『改訂版 新編数学A』 数研出版『改訂版 3TRIAL数学Ⅰ+A』 大学入試対策テキスト プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学ⅡB演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	S 使える 事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学期	微分法と積分法 ベクトル 数列
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅱ』 数研出版『改訂版 新編数学B』 数研出版『改訂版 3TRIAL数学Ⅱ+B』 大学入試対策テキスト プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語演習	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	長文や文法、リスニングの問題演習により思考力、判断力を向上させることで大学入試共通テストや私立大学の入試レベルの学力を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	<i>S</i> 使える 入試レベルの問題演習において、単語や慣用句など適切な語彙で正しく解答できる。	入試レベルの問題演習において、正しく解答することができる。	入試レベルの問題を積極的に解き、復習し、読解力や正答率を向上させるよう努めている。
	<i>A</i> わかる 演習問題において、語句の問題が正しく解答できる。	演習問題において、根拠に基づいて適切に解答できる。	演習問題を根拠に基づいて解くだけでなく、積極的に復習をし、弱点を補強しようと努めている。
	<i>B</i> できる 単語や語句の力が向上している。	演習問題において、自分なりの根拠に基づいて解答を導くことができる。	演習問題において、自分で考え、根拠に基づいて解答しようと努めている。
	<i>C</i> する 問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Stage 2: 文型, 時制, 完了形, 助動詞, 受動態, 不定詞, 動名詞, 分詞/分詞構文, 比較, 関係詞, 仮定法
2 学期	Stage 3: 時制, 助動詞, 受動態, 準動詞, 比較, 関係詞, 仮定法, 否定, 注意すべき構文, 名詞・代名詞, 形容詞・副詞, 前置詞・接続詞, 大学入試問題演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

英語総合問題集 UNITE STAGE 2 (数研出版)
英語総合問題集 UNITE STAGE 3 (数研出版)

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 ペア学習・グループ学習 講義による解説

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	自分の意見を適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自ら進んでコミュニケーションを取り、積極的に関わろうとする。
基	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	指定された時間内に正しい発音で、内容を分かりながら読める。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
準	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすることができる。	指定されて時間内に正しい発音で読める。また事実と意見などを区別して、理解できる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
評価方法	授業・定期考査・インタビューテスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・音読テスト

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Discourse Marker, L1 Emperor Penguin L2 Caffeine, L3 Blood is Blood L4 Biomimetics L5 Communication without Words
2 学期	L6 Christmas Truce L7 Political Correctness L8 Global Water Crisis L9 Animal Math
3 学期	

何で学ぶか (教材)

啓林館『LANDMARK Fit』 English Communication III プリント 数研出版『必携英単語LEAP』

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	現代に生きている私たちが、現在をどのように生き、これからどう生きるか、そしてどのような考えで国際社会に主体的に関わっていくかを自覚する。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 			

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学期	

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	公民	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に生きる国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようすることができる
基	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに、様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の諸課題について、考察し、主体的に解決しようすることができる
準	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようすることができる。
	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日々の課題に対して、主体的に理解しようすることができる。
評価方法	・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	国際政治のしくみと動向
2 学期	国際経済のしくみと動向 国際社会の現状と課題
3 学期	

何で学ぶか (教材)

東京書籍「現代社会」 東京書籍「現代社会 要点サブノート」 プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる 基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 部 生物の特徴 第 2 部 遺伝子とその働き
2 学期	第 3 部 生物の体内環境の維持 第 4 部 生物の多様性と生態系
3 学期	

何で学ぶか (教材)

啓林館 新編生物基礎 (305)
数研出版 改訂版 生物基礎学習ノート

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 グループ活動
